

保健師便り

Vol.76

帯状疱疹 前編



2024.11

最近、生活リズムが乱れていたり、ストレスや疲労がたまっていませんか？日々の疲れに加え、気温が下がる時期はとくに免疫力が低下しやすいといわれています。今回は免疫力が低下している時に注意が必要な病気「**帯状疱疹**」についてのお話です。



○帯状疱疹(たいじょうほうしん)とは・・・

帯状疱疹は水ぼうそうと同じウイルスが原因で起こる皮膚疾患です。水ぼうそうが治癒した後もウイルスが神経に潜伏し、免疫力低下や加齢に伴い、ウイルスが再び活性化することによって発症します。

子供のころに水ぼうそうになったことがある方は、すべて発症するわけではありませんが、体調などによって発症する可能性があります。

○症状と経過

皮膚症状の出現 2～3 日前から**かゆみもしくは痛み**が出現し、その後皮膚が赤く腫れます。

次第に**体の左右どちらか、体に分布している神経に沿う形で水疱(水ぶくれ)**が帯状に出現します。症状が出やすいのは胸から背中、他には顔、下

腹部、腕、足、おしりの下などにも現れます。

顔に発症すると周囲にむくみが出ることもあり、眼の周囲の帯状疱疹では眼にも炎症を起こしやすく、ひどい場合には視力障害を残すこともあるので注意が必要です。また、耳の周囲の帯状疱疹は顔面神経麻痺や難聴、めまいを起こすこともあります。

注意したい特徴



- ・ 身体の左右どちらかにピリピリチクチクした痛みがある
- ・ 痛い部分が帯状に赤くなり、やがて水ぶくれになりひどく痛む

1週間程度経過すると、**水疱の多発、発熱、頭痛、リンパ節腫脹**などの症状も出現するようになります。通常2～4週間で水疱が破れてかさぶた状になり、皮膚が正常に戻ります。

皮膚に現れた水疱にはウイルスが含まれており、水痘ワクチン未接種者などの免疫を持たない人と接触すると、感染して水痘を発症することがあります。すべての水疱がかさぶた状になれば、周囲への感染力はなくなります。発症したら注意して生活するようにしましょう。

次回は治療や合併症、予防についてご紹介します。

<参考・引用文献> 2024年10月参照

[健康の森 \[日本医師会ホームページ\] 帯状疱疹 \(med.or.jp\)](#)

[帯状疱疹 Shingles\(Herpes Zoster\) | 東京都感染症情報センター \(tokyo.lg.jp\)](#)



一般財団法人

京浜保健衛生協会

FOR HEALTHY LIFE

この記事は、神奈川県川崎市高津区にある健診機関「京浜保健衛生協会」が執筆・監修しています。人間ドック/巡回健診/女性のための健診/がん検診など、健診でお悩みの際はお気軽にご相談ください。



一般財団法人 京浜保健衛生協会